

報告 小豆島中央高校同窓会愛称の選定について

小豆島中央高校同窓会の愛称の選定については、同窓会設立当初からの懸案事項として、下記のような選定経過を経て、これを「櫛風」とする方向で意見をまとめたところである。しかしながら、現時点で集会としての総会が開催できない状況にあり、本会の名称を定める小豆島中央高校同窓会会則第1条の改正を行うことには無理があるとの判断から、今年度においては、この愛称を広く会員に情報発信して親しんでもらうこととし、会則の一部改正による正式な愛称の決定は来年度総会において行うものとする。

1. 愛称「櫛風」について

平成30年7月に小豆島中央高等学校同窓会が発足して以来、同窓会の愛称の検討を進めて参りました。この選考にあたっては、旧高校の卒業生だけではなく、小豆島中央高校を卒業する現役の高校生にも親しまれる名称とし、若い世代の同窓会に対する帰属意識や参加意識を醸成したいという思いから、在校生からも意見を聞くことにしました。これまでの選考の経過を下の表にまとめましたが、在校生の他、20代・30代の卒業生にも加わってもらい、検討を重ねてきた結果、同窓会の愛称を「櫛風（かいふう）」とすることで、正副会長会、三役会において意見が一致したところです。

この「櫛風」という言葉は、小豆島中央高校の校風を表すオリジナルの言葉です。「櫛風」には、「風を読み、風を起こし、海原へと、その手で漕ぎだそう」という意味が込められており、小豆島中央高校の「自立 真心 小豆島」という学校目標を目指す若人のありようを示しています。すでに小豆島中央高校の校誌や生徒が様々な分野の講師から学ぶ講座の名称（「櫛風ゼミ」）にも使われており、在校生にとって身近で親しみがある言葉です。

また、「櫛風」の「櫛」には、土庄高校同窓会「翠雲会」の「翠」の一部である「羽」の字が含まれ、「風」は、小豆島高校同窓会「錦楓会」の「楓」の一部でもあります。それぞれの同窓会の心を受け継ぎ、新時代の息吹を感じさせるものとなっています。

この愛称が卒業生の皆様に末永く親しまれ、愛されていくことを願っています。

2. 愛称選定の経過

平成30年7月	小豆島中央高等学校同窓会設立総会
平成30年12月	同窓会会報創刊号の誌面で同窓会名称を募集
令和元年5月16日	小豆島中央高校同窓会役員会 於：小豆島中央高校 参加者：会長・副会長・監事・支部長・校長・教頭・事務局 内容：葛西副会長から公募による愛称案の紹介 ※この会で、新しい同窓会は統合前のそれぞれの同窓会メンバーだけが構成員ではなく、現在の在校生（小豆島中央高校のこれからの卒業生）も構成員であることから、その意見も踏まえた名称にすべきとの意見が出された。
令和元年10月18日	生徒会が在校生に同窓会の名称を募集 在校生の意見を集約
令和元年11月14日	同窓会愛称に関する意見交換会（第1回）開催 於：小豆島中央高校 参加者：会長・副会長・若手会員・在校生代表・校長・教頭・事務局 内容：公募案及び口頭での提案（「錦翠会」「瑞雲会」など9案）、 在校生や若手会員から出された案（「櫛風会」など5案）を検討
令和2年2月26日	同窓会愛称に関する意見交換会（第2回）開催 於：小豆島中央高校 参加者：会長・副会長・在校生代表・校長・教頭・事務局 内容：愛称候補から「櫛風会」を選び、総会に提案する方向で一致
令和2年6月10日	正副会長会開催 於：小豆島中央高校 参加者：会長・副会長・校長・教頭・事務局 内容：「櫛風会」を「櫛風」とする提案を検討
令和2年6月18日	三役会開催 於：小豆島中央高校 参加者：会長・副会長・監事・校長・教頭・事務局 内容：「櫛風」を候補として役員会・総会に提案することを確認
令和2年10月	三役、正副支部長に役員会資料を送付（郵送） 於：小豆島中央高校 内容：「櫛風」の愛称と選定の経過を報告